

平成23年度 知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討

第1回 ウトロ現地検討会 平成23年5月30日(月) 知床世界遺産センター

発言者	発言内容
	開会・挨拶
事務局	お時間になりましたので、「平成23年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会」第一回会議を開催したいと思います。まずはじめに環境省釧路自然環境事務所 則久 より御挨拶させていただきます。
環境省	本日はお忙しいところ皆様にお集まりいただきましてありがとうございます。前回の開催からおよそ半年ぶりの開催となります。また今年もよろしく願い致します。もうこの春から鳥の繁殖シーズン、観光シーズンもスタートしているという時期ですが、今年の夏に向けて色々やりたい事がたくさんありますので、皆様にご相談させて頂きたいということで、お忙しい時期ですがこの春の時期に開催させていただくことになりました。 先般、報道などでご存知の方も多いと思いますが、デコイを一箇所試験的に設置しております。色々なことをやりながら、魅力あるウトロ海域、海鳥にとっても良い生息環境となるよう目指して行きたいと思っておりますので、引き続きご協力の程どうぞよろしくお願い致します。
事務局	資料確認
事務局	座長の任命 敷田委員
敷田座長	皆様お忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。昨年お付き合い頂きました「平成23年度知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会」ですが、幸い今年度も活動を始める事が出来ました。昨年度より皆様の協力のおかげで着実に成果を上げてきています。利害が対立し易い海域をテーマにしてありますが、皆さんが同じテーブルについて頂ける事は非常にありがたいことだと思います。だからといって調整をするだけの会議ではなく、皆さんの意見を出した上で協力できる部分を少しずつ増やしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。
	議事
	1. 検討会の目的・進め方について
環境省	…… 検討会の目的および進め方について説明（再確認）（資料 パワーポイント）
敷田座長	昨年と大きな変わりはありませんが、この枠組みで皆さんにお話をして頂くという説明でしたが、これについて御意見、気になる所がありましたらお聞かせ下さい。
敷田座長	題名が“海鳥”といった会議ではありますが、昨年度の経過からいきますと海鳥だけというよりも、海鳥も利用する海域の利用全体の調整をせざるを得ないという内容となっておりますので、とりあえず今“海鳥”がテーマになっているとお考えください。そういう意味で全体のエコツーリズム戦略にも位置付けられていきます。この会議で出てきた提案や合意がエコツーリズム戦略にも反映されていくという位置付けになっていきますので、エコツーリズム戦略が出来て、それにこの会議が従うという仕組みではなく、この会議で出てきた事がエコツーリズム戦略の中にも活かされていくというスタイル、というふうにお考え頂ければと思います。
シーカヤック事業者	検討会の位置づけのところなんですけれども、エコツーリズム戦略会議へ反映させていくという事ですが、まだこの会議も昨年立ち上がったばかりで具体的な摺り合わせまで至ってないと思うのですが、今後具体的にはどのような形でエコツーリズム戦略会議と関係してくるのか？いまいち情報が私達には良く伝わってこないのですが教えて頂けますか？
敷田座長	昨年立ち上がった「適正利用・エコツーリズム戦略会議」ですが、総勢50名くらいのメンバーで構成されていますが、個人個人の方が参加されている会議では無いので、ここで検討されている事がどういうふう伝わってくるのか？またこの会議との関係についての御質問でしたが補足説明願えますか？

環境省	<p>はい。「適正利用・エコツーリズム戦略会議」という大きな会議がありまして、その中の個々の課題に対する会議として、このウトロ海域の会議も入れていこうという話になっています。今後エコツーリズム戦略というのを立てていく訳ですが、その戦略を立てる際に、事業者の皆様方に戦略に対して必要な事項を入れ込む為の原稿を依頼するという作業をお願いしようと思っています。現在それにむけて戦略の格子というのが作られていますので、それをお示しさせて頂いた上で、戦略の厚みを持たすために原稿をお願いしようと思っています。そうして出来た戦略については皆様に対して説明会を開いたり、パブリックコメントを頂いたりして相互のやり取りの後に最終案に持って行きたいと考えています。</p> <p>会議の内容については、地域の皆様にニュースレターという形でお知らせさせて頂きました。またホームページからも会議の内容を掲載させて頂いております。この海域の会議の中で決められたことや、参加されている皆さんの声や提案を、エコツーリズム戦略の中に反映できればと思っています。その窓口は開けていきたいと考えていますので、是非ご参加願いたいと思います。</p>
敷田座長	<p>わたくしはエコツーリズム戦略の座長もしておりまして、人数が多いのと議題も多いという事で、中々一人ひとりの発言時間も無いので、また、そこで決まった事が皆さんの所属している団体や組織などを通して、一人ひとりへどれだけ会議の内容が伝わって行くかという難しい所もあると思うのですが、昨年運営を一年間やって感じた事は、個別のテーマの事で延々と話し合われるので時間が無くなってしまふ、ですから、この会議の様に専門部会のようなところでお話がきちんとできて、そこで決まった事を全体で承認したり、検討したりというスタイルが出来れば、最終的に望ましいかなと思います。今後2～3年のうちに戦略が出来ればと思っています。</p> <p>たまたま今、私は両方の座長を担当させて頂いておりますが、来年度以降はそういうスタイルになれば、この座長は別の他の皆様がやって頂いていい訳で、それぞれの専門部会があって、戦略会議については体について話す場として独立していくという事になると思います。ただ基本的には親子の関係があると思いますので、全体の事を話す場と、個別の事を話す場とは切り分けようという話だと思っています。</p>
環境省	<p>今エコツーリズム戦略は格子が出来た段階です。これから肉付けの所を皆さんの御意見を頂いて盛り込んで行きたいと考えています。大きなところとしてはその中で「この地区はどうしましょうか？」というところを書くのではなく、大きな考え方は共通になるものを作り、それに対してどういう管理なり事業なりの政策ツールがあるのかを網羅的に書いて、それを行政だけで決めるのではなく、皆さんの御意見も聞いて、「この地区をこうしたいんだけど、こういう利用方法は出来ないのか？」というような提案の合意形成の枠組みとありますが、それをエコツーリズム戦略の中で決めていきたいと思っています。その先行的な例としてこの会議が行なわれているということでお考え頂ければと思います。</p>
敷田座長	<p>まだ検討会も出来てから2年目ですので、具体的にどれが望ましいかというのは参加している方々もはっきりした物をお持ちでは無いと思うのですが、以前までと違って個別の会議と全体の会議は少なくとも連動はありますので、例えばここで出来た新しい提案が出来た事はここだけの提案では無く、全体の会議へ上げて認めてもらうような場が出来たという事でお考え頂ければと思います。</p>
2. 検討会の今年度計画	

環境省	<p>…… 今年度計画について概要説明 (資料 パワーポイント)</p> <p>テーマ ・ ケイマフリなどの海鳥に興味を持つ ・ 知床の海域のおもしろさを伝える</p> <p><利用者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用施設での展示 ・ 船内アナウンスなどでの紹介 ・ 取り組み紹介(調査結果などを含む) ・ チラシの配布 ・ エコツアー商品としてのブランド化 <p><実施主体として></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者へのアンケート実施 ・ みんなで簡易な調査を行う(地図にマーク、写真による記録など) ・ 詳しいモニタリング調査 <p><環境への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デコイの設置 ・ より好ましい利用形態の検討(例えば、ゾーニングや新たなルート開発など)
2-1海鳥調査計画	
環境省	<p>…… 海鳥調査計画について (資料 パワーポイント)</p> <p>海鳥の海上センサス調査 (5月上旬～10月上旬)</p> <p>海鳥の生息状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (1)ケイマフリ生息状況調査(5月～8月) ・ (2)ケイマフリの営巣分布調査(6月～8月) ・ (3)海鳥の繁殖分布状況調査(6月～8月) <p>ケイマフリの採食・食性調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月上旬～10月上旬
・"エコツアー商品"という言葉についての疑問	
中川委員	資料の今年度実施計画の<利用者に対して>のところでも"エコツアー商品としてのブランド化"という記述があるが、これはエコツアーの事じゃなくて、海鳥などの野生動物を商品化とするという意味であれば、これはまずいのではないかとツアーの"対象"とか"資源"という言葉の方が適切ではないか？
環境省	これは観光船ツアーとかガイドツアーという旅行商品という意味で"商品"、"ブランド化"という言葉を使っています。
小型船協議会	ちょっと違うのではないかと先ほどから感じてるんですが、我々はケイマフリの保護ということはどう考えていくか？ということで参加してるのだが、先ほどから"エコツーリズム戦略"だとか"商品"という言葉が出てくるのだが違和感を感じる。我々はケイマフリの保護ということで、これまで観光船が何か悪い影響を与えていたかもしれない、しかしケイマフリを保護しなきゃならないということで、どうしたらいいのか？ということで会議に参加しているのですが、エコツーリズムの戦略だとかという話よりも、どうやったらケイマフリを守っていけるのか？という事で話をしたほうがいいと思います。初めて参加する人もいますので、あまり難しく説明をしないで、もっと自由に話に参加出来るように進めて欲しいと思います。
敷田座長	知らない人が見たらやはり違和感はあるでしょうね。寺崎委員はいかがですか？業界の人間として。
寺崎委員	私は特に違和感はないですが。。。
福田委員	今保護の対象としてなっているケイマフリを"商品"として扱う事は違和感がありますが、ここでいう商品の意味はケイマフリを見れる観光船などの事を商品としているのだと思いますので、誤解が内容にしっかり説明すべきだと思います。

敷田座長	この紙だけがどこかに出ていってご覧になる方の事を想定すると、少々無理があると思いますので、ここは"エコツアーとしてのブランド化"ですとか"エコツアーとしての魅力向上"ぐらいにしておくのはどうでしょうか？それで<利用者に対して>のところでは無くて<環境への配慮>のところを持ってきた方がバランスがとれて良いと思います。
福田委員	見せながら保護するという事だと思います。見た事もないのに保護もないので、ケイマフリが見る事が出来る船に対して、それを"商品"と言っているのだと思います。
敷田座長	則久さん。いかがでしょうか？ツアーとしての魅力を上げるということは必要だと思いますけれど、一方で事業者の皆さんも保護の事を仰って頂いていますので、両方を評価してここに入れて頂くというところですよ。
環境省	ケイマフリというのは、実は結構貴重な鳥であること。それが比較的簡単に見る事が出来るというのが、ウト口の海の魅力、セールスポイントであると思いますので、そこをもう一度再評価して、この鳥がここで繁殖し続けながら、来たお客さんには喜んで頂けるような、そこを目指していきましょう、という事だと思います。それはエコツーリズムの一つのスタイルであると思います。言葉が若干踊っているところがあって、「ケイマフリを見に行くツアー」という事にもなかなか成らないと思いますが、少しでも付加価値が高められたらと思いますし、もう一つ鳥そのものの保全をしっかりとやらなければならぬという事では明快でありますし、保護のために具体的にどのような事をしていくかということで、デコイの設置だけじゃなくて、観光船やシーカヤックにも協力して頂かなければならぬ事も出て来ると思いますので、この中に入れ込んで行きたいと思います。
中川委員	なぜここで商品という言葉に違和感を皆さんが感じるかというと、世界遺産の知床の素晴らしい自然を守りながら見て頂こうと、新しい形を作ろうとしていると思うんですね。ですから商品という言葉に違和感があるんだと思います。言葉というのは非常に重要ですから、もっと違う言葉で目指している事を表現した方が良いと思いますよね。
小型船協議会	我々としても、ケイマフリという貴重な鳥がいる事をそう説明していこうか？徐々に説明もするようになってきていますよ。我々としてもケイマフリについて会議もしていますが"商品化"という話までは今は考えていません。その前にどうやって守るか？影響を与えないでやるか？という事をしっかりと煮詰めてから、"商品"という話をした方がいいと思いますね。
環境省	今この表の中に<利用者に対して>という所に"エコツアー商品としてのブランド化"というのが入っていますけれども、むしろ利用者に対してですので、来て頂いた観光客の方々にケイマフリの貴重さや大切さを伝える、というような事が我々が利用者に対してやりたい事だと思うんですね。
敷田座長	会議のスタートとしては、こういう言葉は正確に皆さんに伝わるようにしておくことが大事だと思いますので、今せっかく言葉についての意見が出ましたので、一度整理して頂きましょう。基本的に意味合いとしては、エコツアーとして安売りはしないということを使ってらっしゃると思いますので、ちゃんと保護や保全をする手間暇を掛けているものであって、価値があるものだという事でもう一度修正して頂けないでしょうか？
中川委員	修正の仕方の一つ、この項目は削除して良いのではないかと思います。実施計画の中で、今ここに入れなければならぬかな？と疑問に思います。目指す物としてこのような事は残って行くことでしょうか？
寺崎委員	今、小林会長や中川先生が言われていた事は非常に大事な事だと思いますので、私なりの意見を言わせて頂きますが、ケイマフリは非常に貴重な鳥で、守って行かなければならない鳥であるということで、本来守っていく為に一番いいのは人が近寄らに事ですよ。だけど敢えて知床に来られるお客さんに見せてあげたいし、見てもらえると喜んで貰えるんじゃないかということで、「こんな貴重な鳥がいるんですよ」、「可愛いでしょう?」、「守っていかねばいけませんよ」、「という説明をして「わあ、凄いね」ということで思い出となって帰って行くわけで、そのところは凄く大事な所だと思うんですね。せっかくそういう貴重な人を寄せて見せてあげるのだったら、見た人の喜びや感動を、より大きくしてあげられたら、来てくれた人の獲りへの愛情や保護しなければならぬという気持ちを増す事になる訳ですから、そういう感動をより大きくするためにはどうしたら良いか？という事を目指して行く訳ですよ。
小型船協議会	その時点になったら"戦略"でいい訳ですが、今はデコイとかやっている訳ですよ。ですから何故デコイをやっているのか？という説明の方が先だと思うんですね。お客さんにそういう事を説明する訳ですからね。商売のための"戦略"なのか保護のための"戦略"なのかで、誤解を招きかねないので、言葉の使い方に注意が必要でしょう。
敷田座長	色々意見を頂きまして、寺崎さんの意見としてはお客さんへの説明が大事であるという事は、皆さん言葉は違えども同じ思いであることだと思います。今の段階では"エコツアーのブランド化"というよりも、しっかりとケイマフリについて説明するという事だと思いますね。「ケイマフリの価値の説明」のような項目を追加した方がいいですね。

寺崎委員	「価値の説明と確立」ですね。
敷田座長	いくつか御意見出て来ましたが、この”エコツアー商品としてのブランド化”という項目は削除して、<利用者に対して>という項目の中で”重要性の説明”や”価値の説明”という内容の言葉を盛り込んで頂きたいと思えます。それから<環境への配慮>という所に”保全に対する協力体制の構築”という項目を入れて頂きたいと思えます。
・海鳥調査結果の観光船事業者へのデータ提供について	
環境省	今年度も海鳥のモニタリング調査は春から秋まで実施されますけれども、調査調査結果について、例えば月一回くらいでも、観光船事業者へデータ提供して、観光船事業者は観光客に対して説明できるような、そういう事は出来ないか？という事を提案させて頂きたいと思うのですが、観光船側のニーズとしてそういう事はいかがでしょうか？
敷田座長	今の御提案は具体的に提供出来るという前提でしょうか？事業者さんが使いやすい形で提供される事ということでよろしいでしょうか？ただデータだけが渡されてというような形ではなく。。
福田委員	前回の会議でもこの話はさせて頂いたんですけども、海鳥の調査をやっても報告書を作って終わりでは無く、随時「こういう鳥が見えました」という情報の提供をしていきたいと考えています。その方法をどうしていくかということで皆さんの御意見をお聞かせ願いたいと思っています。既に5月の上旬からおーろら号さんに乗せてもらって調査を実施しています。その中から見えた鳥に関する情報を皆さんで見れるブログか何かの情報版の様なものが見る事が出来れば良いかと思っています。それが各観光船のサービスに繋がっていくというふうになれば良いかと思っています。
敷田座長	福田さんからの情報提供は可能であるので、その利用方法を何か考えてやりたいという事ですね。事業者の皆さんはいかがでしょうか？
中川委員	関連してですが、リアルタイムで情報を出してもらおう事が非常に大事なんですけども、例えばコロニーなんかは、今巢の中はどのような状態なのか？ヒナが孵っているのか？どうか？ヒナが孵って親鳥が頻繁に餌を運んでいます。この岩礁にいるのは今年巣立った鳥です、というような説明が出来ますよね。そういう時期に応じた情報をブログなどで出してもらおうと非常に有効であると思えますね。
敷田座長	もし事業者さんなどが使って頂けるのであれば、福田さん、データだけでなく使えるレベルの物で提供して頂く事は可能でしょうか？
福田委員	可能ですね。せっかく調査していても報告書を作るだけでは勿体ないですからね。
小型船協議会	凄いいいことだと思いますよ。我々もみんなそういう情報をお客さんに提供出来れば、福田さんが個人で情報を提供するより我々からも情報提供出来れば、そのほうが効果的ですよね。
福田委員	それがいいなと思うんですよね。例えば鳥を見たい人が来た時に、「今の時期にヒメウが綺麗な羽根になっている」とか、日本ではあまり見る事が出来ませんからね。「オオハムが綺麗な羽根のものが見えますよ」などという情報をリンク出来れば良いかなと思うんですよ。
小型船協議会	だから、観光船だとかね、色んな海に携わる人間、みんなでそういうことをしないと駄目なんですよ。
敷田座長	福田さんから、どのくらいのタイミングで出して頂けますか？
福田委員	1か月だと状況変わり過ぎますから、1週間から2週間に一度だと思えますね。基本的に観光船から見る事の出来る情報ですね。
敷田座長	それでは福田さんの調査結果も含めて、それからご自分の観察も含めて、利用できる形で2週間に一度とか1か月に一度で事業者に提供して頂くということですね。シーカヤック事業者はいかがですか？

シーカヤック事業者	一つリクエストなんですけれども、調査結果というのは内容として非常にドライなんです。我々ガイドとしてはお客さんに対して話す事になるので、もう少しガイドしやすいようなレベルでの提供をお願いしたいと思います。今言われたようなヒメウの羽根の色などについても教えて頂けると、ガイドは「この時期しか見れない限定ですよ！」というふうにお話出来ます。
福田委員	そうですね。リストだけもらったって面白く紹介出来ませんよね。
敷田座長	現場のガイドの方が翻訳して使えるレベルの物でいい訳ですね。それは福田さん可能ですか？
福田委員	可能ですね。
敷田座長	いきなりぴったりと合うかは別として、何度かやりとりして頂ければ出来ると思いますので、提供を考えて頂けませんか？また提供される方も、どういうふうに使えたかという事も教えて頂けませんか？
シーカヤック事業者	そうですね。 あと環境省のほうで、そういうやりとりをする場を一度作って頂けませんか？どんな素材がいいのか？どんなレベルの物がいいのか？というのを福田さんに伝えてもらって、始めるのが一番いいのではないかと思います。環境省さん、一度やりませんか？
環境省	そういう場を設けることは是非やりたいですね。
敷田座長	おそらく何度かやりとりして頂ければ、大丈夫だと思いますけれどもね。寺崎さん何か良い例はありませんか？
寺崎委員	こういう議論になるんじゃないかと思って、他で作ったものを持って来ましたので是非後程ご覧頂きたいと思えます。
敷田座長	せっかくなので皆さんに御紹介してもらいましょう。後程お願い致します。
敷田座長	それでは海鳥の調査については、情報提供にもウェイトを置いてもらうという事で、調査結果の速報性を上げて2週間～1か月程度で福田さんの最終的な判断によると思います。事業者さんに向けて情報提供させて頂くという事となりました。事業者さんにおいては、その情報によってお客さんにどんな情報提供が出来たのか？ということや又こういう会議の場で話をして頂いて、また来年に繋げるといふふうにして行きたいと思えます。 迅速に情報提供されますので是非ご活用ください。また使ってみて工夫があれば環境省や福田さんにフィードバックして下されば、より良い物になると思えますのでよろしくお願い致します。
2-2.デコイの設置について	
環境省	…… デコイの設置について (資料 パワーポイント) 平成23年5月18日 水上デコイを初設置 今後のデコイ設置計画 ・ コケシ岩での設置を利用施設での展示 ・ 船内アナウンスなどでの紹介
敷田座長	デコイの設置について環境省としてどうしたいのか？環境省側から今年度どうしたい、という具体的な提案はありますか？
環境省	本来の目的のために1基海上型を設置したという事と、PR用に使用したいという事があって、また海上型の設置箇所については、そのような取り組みをしている事を紹介して欲しいという所もあるのですが、あまり近付かないで欲しいというところもありますので、そこは是非協力して頂きたいと思っています。
敷田座長	そうしましたら、基本的に今年は1基で終わりで増設はしないという事でよろしいでしょうか？
環境省	今設置しているデコイについては誘引目的ですので、あまり近付かないで欲しいというところがありますので、場所の折り合いがつけば、PR用デコイとして他の違う場所に設置することも考えていけたらいいと思えます。
敷田座長	デコイを使った説明というのは事業者さんにも伝えられているのですか？今少し説明されましたけれども。

環境省	繁殖用デコイの設置場所についてはお話をさせていただいておりますが、設置場所など具体的な話には至っておりません。
敷田座長	これは必要ですよ。どこに付けるのかという話は。
環境省	これは漁協さんとも御相談になるんですけども、今設置しているデコイは繁殖目的として設置していますので、効果の検証もしていかなければならないと思っています。もう一か所は観光船のお客様などに間近に見てもらえて「これがデコイですよ」というふうに取り組みを紹介出来れば良いのかなと思っています。この時どこに設置するかという御相談が一つ出て来ます。これは漁業者の方々もいますので設置できる場所があるのかどうかの御相談です。もう一つは陸上型はストックが10個ほどあります。これは直ちに設置するものではありませんので、各観光船のチケット売り場や船の中などで展示して頂くのに貸し出しさせて頂いてPRに利用させて頂きたいと思っています。
小型船協議会	私達は先日の会議の中で、ケイマフリの保護の一環として貯金箱の様な物は出来ないかという事で話をしました。我々としてもお客さんに説明するなかで何かしていかなければならないのではないかと話しています。そういう話をまず先にしなければならぬのではないですか？(笑)
小型船協議会	ちなみにこれは一体おいくらぐらいするんですか？
環境省	陸上型ですと一体¥30,000ぐらいですね。
環境省	型は取ってるんですが、元が手作りなので少々高価になってしまうんですね。
敷田座長	今、則久さんから提案があったデコイの件ですが、一箇所は保全用として設置しているので、あまり近付いては困るという事で、もう一つは漁協の山本さんに御相談なんですけれども、観光用として今年度設置したいということですがいかがでしょうか？
ウトロ漁協	福田さん、今でいいの？
福田委員	私としてはですね。PR用としてはあってもいいと思うんですけども、まず今設置したデコイの検証をしっかりやってからの方がいいと思います。まだ一個設置しただけですから、この段階で説明用として始めてしまうのは時期尚早なのかもと思います。
環境省	そうですね。一個だとまだ効果あるかどうか解りませんよね。
小型船協議会	それは海上じゃなくてもいいじゃないですか？何でそこまで話が行くのか？ということです。福田さんに聞けばちゃんと調査しなくては解らない、というふうに悩ましい訳じゃないですか？もっとやれるところあるじゃないですか？
中川委員	船の中に置かせて貰った方がいいんじゃないですか？
福田委員	海上に浮かせる前に、説明用として船や事務所で使ってもらった方がいいかもしれませんね。
敷田座長	とりあえずは一つを設置して、残りは事業者の皆さんに一つずつお渡しするという事でどうでしょうか？
環境省	船は全部で何艘あるのでしょうか？
小型船協議会	全部で9隻でしょうか。。それにおーら号さんでしょうね。
敷田座長	大型船は水上設置の大きいものをお渡しすればどうでしょう？
小型船協議会	出来れば事務所の方で募金箱の計画があって、すぐ横にデコイを置ければとも思っていたんですが、船に置くという話が無ければ事務所に展示コーナーを作ろうとも思っていました。出来れば乗る前にケイマフリの事を知っておいてもらいたい部分があります。実際にデコイを設置してからその状況を見てるんですけども、やはり遠いと良く解らないというのもあるって、船長も見つけられない事があるようで、そういう時に船にデコイがあると、それを使って「こういうものが設置してあるんですよ」ということが説明ますね。
福田委員	実際に見てみると、鳥よりも良く解らないんですね。実物だとそこに居れば解るんですけど、デコイは意外に見えにくい物なんですね。おーら号さんからですと、残念ながらとても見える物では無いですね。

敷田座長	環境省がOKをしてくれれば、10個のうちストック分を除く9個を貸し出す。大型船には水上設置型の大きなものを2基貸し出すという事で合計11個。その使い方については事業者さんに任せるとい事でいかがでしょうか？
小型船協議会	ケイマフリを通年でPRとするならば事務所に置いておいた方がいいだろうね。
小型船協議会	デコイはケイマフリの居ない時期に、説明するのに有効かとも思いますね。今は生で見れるところに飛んできたりするのでいいんですけども、その後ここに居なくなった時に「ここにこういう鳥がいる」という説明が出来る状況を取りたいですね。
福田委員	ケイマフリの居なくなった時期に、それを海に設置して見せるというのはいいと思いますね。鳥の生態に影響を与えないですからね。
敷田座長	これはあといくつも作ることは出来るんですか？
環境省	予算次第ですね。元々このデコイは浜中で実際作って実績があるんですね。元々エトピリカという鳥を呼ぼうとして設置してみたら、なぜかケイマフリがそこに来て営巣したというのが確認されていて、ではケイマフリのデコイを作ってみようということで、エトピリカ基金というNPOの方が型を作ったんですね。その型があったので¥30,000で作れたということもあります。型から作るともっと高かったと思います。型がありますので増産する事は出来ます。
敷田座長	先ほど小型船協議会から募金の話もありましたよね？できればデコイのもう少し数を増やせたらいいのではないかと、本当はお店と船で両方有った方がいいと思いますので、協議会で少し作れませんか？今たくさん作ると安く作ることが出来るという話も御座いましたので。
小型船協議会	募金のお金でそれを作るという事ですかね。。
敷田座長	募金もいいんですけど、多少身銭も切ってもらけるとおそろく募金する方も「皆さんがお金出してるんだから私も募金しよう」という話だと思いますけれどね。
小型船協議会	そうですね。
シーカヤック事業者	何個注文するといくらになるか出してもらえませんか？
敷田座長	そうですね。せっかくこちらからそういう話があるんですから是非検討してみてください。
福田委員	これは海に浮かべるからFRPで作ってるわけで、素材を変えればもっと安くできるかもしれませんね？
敷田座長	環境省さんのほうで調べてもらって、少しまとまって作って皆さんにそれぞれ負担してもらおう事などの可能性を探ってみてもらえますか？よろしくお願いします。
小型船協議会	型さえあれば、僕ら紙粘土とかで自分で作りますけどね(笑)
シーカヤック事業者	例えば、もし¥1000くらいで安価に作る事が出来れば、このデコイを関係者だけじゃなくて、ホテルや道の駅など、どこにでもおいてもらえれば、新しい知床のマスコットになりますよね。そういうのも面白いですよ。
小型船協議会	いっぱい置いておいて、逆に、お客さんに「なんでこんなにどこにでも置いてあるんだ？」と思わせる方法もいいかもしれないね。ネットで発信じゃなくて、歩いているだけでなんだか目に良く着くというふうだね。
敷田座長	先ほどの話が上手くいったら、第2段階として皆さんでそういうような事を考えていたら良いのではないのでしょうか？おそらくそれが環境省が考えているブランド化という内容になるんじゃないでしょうか？
敷田座長	第一段階としては、環境省が作ってくれたデコイでPRを始めて、足りないようであれば皆さんで少し負担して頂いて数を増やして、それでうまくいけば、シーカヤック事業者のアイデアの様に小さいものでもたくさん作ったりしていくということで、是非御協力をお願い致します。
小型船協議会	ネットとかじゃなくて、目に見える発信の仕方とかいろいろあるじゃないですか？話をしてわかる人もいれば、耳が不自由な方が旅行に来た時なんかは、そういう人たちというのは目で見える感覚が凄く強いから。例えば耳の不自由な方が船に乗られた時には、絵と言葉を書いてあげて教えてあげるとかも出来るし、そんなのをいっぱい置いておいたら「あ、ここにもある！」、「あ、ここにもある！なんだこの町は？」というふうになるといいんじゃないかと思うますね。

中川委員	海のシンボルにしていったらいいと思いますね。陸はヒグマやシマフクロウ、ワシなどがあるんですが、海のシンボルって無いんですよね。ですから保護のと一緒に価値を広げる意味でも、それこそ観光協会のシンボルマークに使うとか広めていくというのが凄いいのかなと思いますね。
敷田座長	ありがとうございます。まず環境省から11基の提供があります。それから出来れば協議会でも少し作ってもらえる事が出来れば、みんなで大事にしていますよ、というPRにもなるとと思います。観光協会も是非一つか二つ作って下さいよ(笑)
敷田座長	ありがとうございました。それでは次に参りましょう。
2-3.利用者動向調査について	
敷田座長	昨年度も予備調査を実施して結果が出ていまして、なかなか貴重なマーケティングデータとしても使えるという事で寺崎さんにも評価頂きました。今年は本格的な調査を実施するという事です。御説明お願い致します。
環境省	<p>…… 利用者動向調査について (資料 パワーポイント および資料3)</p> <p>観光船利用者を対象に調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布時期 前期(海鳥繁殖期) :6月~7月 後期(海鳥非繁殖期) :8月~9月 ・観光船窓口配布と直接配布 (昨年同様) ・期、大型船・小型船、航路、団体・個人の集計単位別に目標回答数100とし配布 ・他の陸上アンケート調査と設問内容の調整
敷田座長	ありがとうございました。アンケートは資料2についているアンケート票を使うという事です。質問も少し昨年から変わっているという事です。大型船、小型船、シーカヤックで実施するという事で皆さんの御協力をお願い致しますという事でした。これについて皆さんいかがでしょうか？
小型船協議会	どの事業者も協力する方向でいると思いますけれども、旅行会社によっては旅行会社のアンケートがあって受けてもらえない所も多々あったんですよね。それと御相談なんですけれども、ポストカードが一枚でもあと書いてくれる確立も上がるという所もありますので、出来ればポストカードなどがあるといいと思うのですが、それは各事業者負担になるのか？用意してもらえるのか？確認させて頂きたいと思うんですけども。
環境省	今ほかの案件でもポストカードを作っていますので、それに合わせてポストカードを用意したいと思っています。
敷田座長	それは大型船、小型船、シーカヤック全てですね？ はい。そういう事だそうです。よろしいでしょうか？
小型船協議会	はい。ありがとうございます。それによってお客さんに勤めやすいという事もありますので助かります。
敷田座長	それでは申し訳ありませんが、今年も引き続き御協力をお願い致します。個々の調査結果については昨年の様に秋には御報告して頂けますか？
環境省	そうですね。秋には2回目の検討会の時に報告出来るようにしたいと思います。
敷田座長	ありがとうございます。それでは何か御意見は御座いませんか？
	それでは次に「海域状況観察の試験実施について」ということで御説明をお願い致します。
2-4.海域状況(海鳥)観察の試験実施について	
環境省	<p>…… 海域状況(海鳥)観察の試験実施について (資料 パワーポイント および資料3)</p> <p>観光船事業者による河緑観察記録の提案</p>
敷田座長	ありがとうございます。これは任意の実施ということですよね？これは貴重なデータにもなるということで、是非御協力を頂きたいと思いますけれども、御意見などいかがでしょうか？
敷田座長	環境省さんは、具体的にお願いしたい事はありますか？

環境省	出来ればこういう取り組みに賛同して頂ける事業者さんがいらっしゃいましたら是非お願いしたいと思います。
敷田座長	解りました。是非どこかの事業者で実施に御協力頂ければと思います。特に御意見がなければこの議題は終わりにしたいと思いますがいかがでしょうか？
敷田座長	以上で今年度事業計画について1～4までが終了しました。それでは次に参りましょう。
	3. その他
	3-1.検討会の名称について
環境省	…… 検討会の名称について説明 (資料 パワーポイント)
環境省	最初の所でお話が出ましたけども、この検討会は”適正利用・エコツーリズム検討会議”の中に位置付けられています。現在の会議の名称は「知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会」という名称になっておりますが、適正利用・エコツーリズム検討会議の下に位置付けられている事を明確化したいという事がありましたので、名称を「適正利用・エコツーリズム検討会議 ウトロ海域部会」というふうに変更したいと思います。御意見ありましたら頂きたいと思ひます。
敷田座長	ありがとうございました。適正利用・エコツーリズム検討会議という大きな会議がありまして、こちらで陸域と海域を合わせて検討していくという事になった関係と、陸域の方で先行してカムイワッカと羅臼湖の協議会というのがありまして、こちらエコツーリズム検討会議の中で、それぞれ”カムイワッカ部会”、”羅臼湖部会”というふうにな名前が変わっていく予定となっております。海域の方も同じレベルの名前にしたいという事です。名前が短くなって格下げになったように思われるかもしれませんが、実質格上げになります。通称名としては”ウトロ海域部会”ということにしたいと思ひますがいかがでしょうか？
福田委員	”海鳥”は入らないですか？
敷田座長	入らないです。カムイワッカも入らないです”カムイワッカ部会”ということで場所で扱う名前になります。
中川委員	今まで海鳥の検討会という事で、海域でも絞られたテーマに対してやってきたんですけども、格上げになるという事でしたが、検討会のメンバーは変わるんでしょうか？
環境省	基本的には同じです。実質的にはこの会議と変わらずに名称だけが変わるという事です。
中川委員	扱う対象が他の課題が出てくれば、ここで扱うという事になる訳ですか？
環境省	ただこの会議そのものは、一番最初の意見交換の中で海域における課題に対しては幅広く扱って行くという事で議論させて頂いておりましたので、そこが変わるものではないということです。
敷田座長	とりえず重要なテーマであるケイマフリを扱うという事でスタートしますので、中川さんの御指摘のようにケイマフリ以外の課題も扱うのか、という、YESかNOかというYESではあるのですが、今のところケイマフリ以外の事を持って来る余裕はたぶん無いと思うので、当面はケイマフリで行くということですね。そういう理解でよろしいですね。来年度の事業がある間は事業名で”海鳥”がついていますから当面海鳥だけですね。その後は解らないですね。
環境省	プレジャーボートの話ですとか、さけのライセンス釣りの話ですとか、色々な海域の利用があって、それぞれの利用でWin-Win-Winの関係を築いていこうというのが目的です。最初は海鳥と人間の良い関係づくりからスタートしましたが将来的には海域利用全体の調整が視野に入っているという事です。
敷田座長	中川委員よろしいでしょうか？
敷田座長	それでは、名称を”ウトロ海域部会”とすることで合意を得たという事でよろしいでしょうか？ はい。ありがとうございます。
敷田座長	それでは、丁度時間も終わりになって来ましたが、最後は全体を通して意見交換出来ればと思ひますがいかがでしょうか？
環境省	知床の海は漁業関係者の漁業管理が非常に良い例として度々知床が先進例として紹介されているんですが、世界遺産という事もあって、水産資源管理に加えて特定自然観光資源として、まさにケイマフリやヒグマもそうですが、それらも持続可能な管理が出来れば、かなり知床の海は非常に先進的なモデルになっていく事と思ひますので、ケイマフリの事を皆さんに知って頂いて、未長く共存できるような形になればと思ひますので、引き続き御協力の程よろしくお願ひしたいと思います。

敷田座長	ありがとうございました。特に意見が無ければこれで終わりにしたいと思います。皆さん長い時間ありがとうございました。
	閉会
環境省	本日はお忙しい所お集まり頂きまして誠にありがとうございました。